



香川県立中央病院
Kagawa Prefectural Central Hospital

れんけい

題字: 松尾信彦書

新年ごあいさつ 院長 塩田邦彦

新年あけましておめでとうございます。旧年中は当院の運営につきまして多大なご協力を賜り、誠にありがとうございました。

本年はいよいよ新病院開院の年となります。3月1日に入院患者を移送し、4日からは外来診療をスタートさせます。昨年11月29日に建物は竣工しており、現在、医療機器の搬入を行っている最中です。新たに四国初となる血管撮影装置を備えたハイブリッド手術室をはじめ、全身の定位放射線治療及び強度変調放射線治療が可能な高精度放射線治療装置ノバリスTX並びにPET-CTが導入されます。また、離島や遠隔地からより迅速に救急搬送を行うため屋上にヘリポートを設置し、高度先進医療ばかりではなく、救急医療、災害対策医療にもこれまで以上に力を注ぎます。引き続き当院の基本理念である「香川県の中核病院として安全・安心な医療を提供し、県民並びに地域医療機関から信頼される病院」を目指し、ハード・ソフト両面で患者さんの立場に立った最適な医療を提供できるよう努力して参ります。



新病院開院に向けて、本年2月6日には福山市民病院から放射線診断・IVR科統括科長 奥村 能啓先生をお招きし、ホテルマリパレスさぬぎにおいて「PET-CTによる腫瘍診断」と題したセミナーを開催する予定です。

また、心房細動のアブレーション治療につきましても、昨年以上に力を入れて参ります。2月13日には弘前大学附属病院 循環呼吸腎臓内科学 奥村 謙教授をお招きし、当院大河医師と共に、サンポートホール高松6F会議室におきまして「不整脈をカテーテルで治す -医・工学イノベーションとその臨床応用-」と題したセミナーを開催予定です。

いずれも当院に取りましては新たな試みであり、是非ともご出席賜りますようお願い申し上げます。

新病院への移転の際には、一時的な診療の縮小や休診など、ご迷惑をおかけすることもあろうかと存じますが、ご理解を賜りますと共に、これまで以上に皆様方との連携を深めていくことができますよう、ご指導、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

医療セミナーの開催予定

地域の医療機関の先生方を対象とした医療セミナーを開催します。

- 日時: 平成26年2月6日(木) 19時～
- 場所: ホテルマリパレスさぬぎ2F「瀬戸」(高松市福岡町2丁目3番4号 電話087-851-6677)
- テーマ: PET-CT による腫瘍診断
- 講師 福山市民病院 放射線診断・IVR科 統括科長 奥村 能啓(よしひろ) 先生
多数の先生方のご参加をお待ちしております。

医療セミナーの開催予定

地域の医療機関の先生方を対象とした医療セミナーを開催します。

- 日時: 平成26年2月13日(木) 19時～
- 場所: サンポートホール高松6F 61会議室(高松市サンポート2-1 電話087-825-5000)
- テーマ: 「不整脈をカテーテルで治す -医工学イノベーションとその臨床応用-」
「香川県の心房細動アブレーションの現状と当院の取り組み」
- 講師 弘前大学附属病院 循環器・呼吸器・腎臓内科教授 奥村 謙先生、当院循環器内科医長 大河 啓介
多数の先生方のご参加をお待ちしております。

新中央病院ニュース（新病院の開院について）

新病院は、昨年、予定どおり建築工事が完了し、現在は医療機器等の移転作業の準備・運用マニュアルの最終調整など、3月1日(土)の開院に向けて準備を進めております(外来診療開始は3月4日(火)からです)。

開院後は、高精度の放射線治療装置(ノバルスTX)やPET-CTなど、最新型の医療機器を導入するほか、心臓センター・脳卒中センター・がんセンターなどの専門医療センターを設置し、県の基幹病院として急性期医療に特化し、高度医療や三次救急医療に重点的に取り組むこととしております。そのため、予約検査が必要な患者の比率が高まることから、入院・手術

・検査にかかる説明、及びクリニカルパスの説明を一元的に行う入院・検査説明センターを新たに設置し、医療の安全性を確保するとともに、患者満足度の向上も図ることとしております。

今後、新病院への移転に際しては、患者の方々を安全に移送するために入院患者数を一定数まで減少させるとともに、2月22日(土)～3月3日(月)の間、外来や救急などを休診する予定ですが、この間、地域の医療機関等との連携を密にし、県民の方々への影響を最小限にとどめるよう努めてまいります。

移転開院後、当院が引き続き香川県の中核病院としての役割を十分に果たせるよう取り組んでまいりますので、今後とも皆さまのご支援・ご協力をお願いします。



職場紹介「形成外科」 形成外科診療科長 古市 浩美

形成外科の手術法の歴史は非常に古くからありますが、日本では1960年頃より大学病院に形成外科が設立されはじめ、1975年に医療法で一般標榜科として正式な診療標榜を認められた、比較的新しい外科系の専門領域です。

当院形成外科は1986年に香川県下では2番目に開設されました。現在、日本形成外科学会の認定施設として、形成外科専門医2人を含む4人の医師で診療を行っています。

形成外科は全身の主に身体の表面に生じた傷や変形・欠損を、専門的手技で機能だけでなく形態的にも修復し、その人の生活の質“QOL(quality of life)”を向上させることを目的としている診療科です。治療対象は小児から高齢者まで全ての年代に及びます。

対象疾患は新鮮外傷・新鮮熱傷、顔面骨骨折・顔面軟部組織損傷、先天異常(顔面、体幹、手足など)、皮膚・軟部組織腫瘍(悪性腫瘍、良性腫瘍、母斑など)、腫瘍切除後の再建(頭頸部、乳房、四肢など)、瘢痕・ケロイドおよび褥瘡・難治性潰瘍など多岐にわたります。また最近では眼瞼下垂、顔面神経麻痺、リンパ浮腫などにおいても形成外科手技が有効で症例数も増加しています。

形成外科手技としては、縫縮、植皮術、皮弁術、ティッシュ・エキスパンダー法、マイクロサージャリーおよび陰圧閉鎖療法などを行っています。



データで見る中央病院 「腎臓・膠原病内科」

腎臓・膠原病内科
診療科長 山崎 康司

腎臓膠原病内科では、①腎炎・ネフローゼの診断・治療、②慢性腎臓病(CKD)の啓蒙活動や患者指導、③腎センターでの透析を含めた血液浄化療法の管理、④膠原病の診断や治療を行なっています。図はH18年からH25年(12月現在)までの当院腎センターで新たに治療した患者さんの件数を示しています。腎センターでは約30名の外来維持血液透析、5名の在宅血液透析、34名の腹膜透析患者の治療管理を行っていますが、年間50-90名の新規透析導入の他に、他院で透析療法を受けている患者さんの合併症による検査や治療中の透析療法を行っています。その数は年々増加しており、昨年から170件を超えています。月平均15件ほどになりますので、毎週3-4名の新しい患者さんをみていることとなります。内訳は狭心症や下肢の動脈硬化性閉そく症(ASO)の血管造影の検査や動脈拡張術などの循環器領域、骨折や壊疽による下肢切断などの整形外科領域、脳血管障害、悪性疾患治療などになります。透析患者さんの高齢化や、基礎疾患が糖尿病や腎硬化症になっていることを強く反映していると考えられます。今後も増加していくことが予想され、透析導入や管理だけでなく、合併症治療についても当院の果たすべき責任は大きいと思われます。その他潰瘍性大腸炎に対する白血球除去療法や血漿交換療法などの特殊血液浄化も行っています。

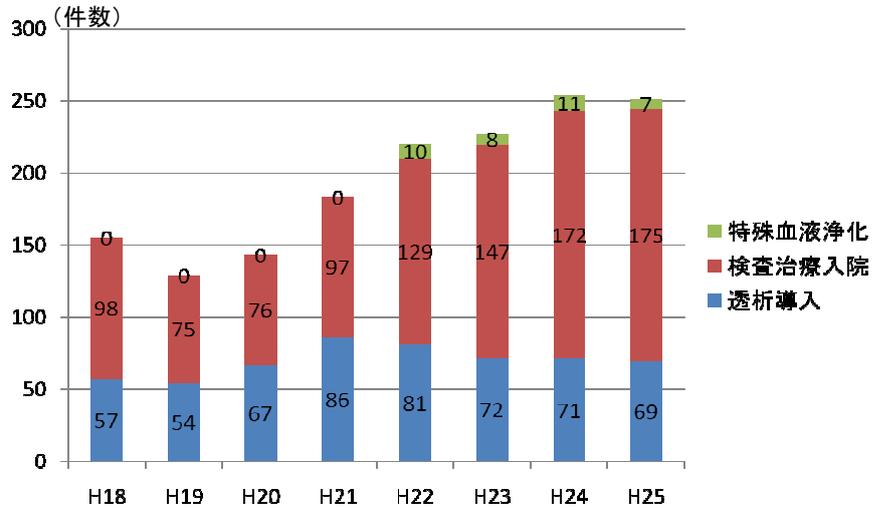


図: 当院腎センターでの新規血液浄化件数の推移(H18~H25)

またCKD対策として保存期の腎臓病教室(ほじほじの会)を3回1クールとして年3クール(9回)行っており、院内外から患者さん、ご家族の方に多数参加していただいています。看護師さんが主となり、医師、管理栄養士、薬剤師などチームでわかりやすく腎臓病の病態や治療、食事療法や生活指導を行っています。やや病状が進行した患者さんの教育入院や透析療法の選択入院などと合わせて是非ご利用いただければと思います。腎臓が悪い、血圧が高くて管理が難しいなどの相談がありましたらご紹介いただければ幸いです。

第5回病院祭を開催しました。

11月16日(土)、第5回病院祭を開催しました。今年も天候にも恵まれ、院内外から多数の方々にご参加いただきました。

公開健康講座では、当院救急部部長 佐々木和浩医師が「もしあなたの前で人が倒れていたら?！」と題して、神経内科医長 森本展年医師が「認知症や歩行障害にならないために」と題して、また診療部長 武田克治医師が「新病院の紹介」と題して講演しました。

院内コンサートでは、高松市立亀阜小学校、香川大学附属高松小学校の皆さんによる合唱のほか、当院職員有志「SWATS(スワッツ)」による演奏、県庁邦楽研究会による演奏が行われました。

今年も、中央病院の歴史を振り返るコーナーも設けられ、新病院の開院を前に、懐かしい思い出に浸るひと時もありました。

玄関前では地元有志「碧空会(あおぞらかい)」による1,000食のうどんが振舞われ、来場者は打ち立てのうどんに舌鼓を打ちました。花や野菜などの即売も行われ、大盛況のうちに終わることができました。

ご参加いただいた皆さん、準備等でお手伝いいただいた皆さん、本当にありがとうございました。



歴史の勉強は楽し♪(その7)

消化器・一般外科
診療科長 鈴木伊智雄

最近このシリーズの内容が難しいという声も聞きますので、今回はいたって分かりやすいお話です。今年の大河ドラマはまた戦国時代に戻りましたので、今回は戦国時代の悲劇のヒロイン淀君についてお話します。私は淀君に関しては全くいいイメージを持っていません。

豊臣秀吉は子室に恵まれず、正室の北の政所は不妊症だったために妻の実権を淀君に奪われたと言われていますが、これはとんでもない誤解です。秀吉には大勢の愛妾がいたにも関わらず、子供を産んだのは淀君たったひとりで、しかも淀君は短期間のうちに2人も秀吉の子供を産んだわけです。こんなことが実際に起こる確率は限りなくゼロに近いでしょう。ちなみに何十人も側室を抱えていた、秀吉の後輩ともいべき11代将軍徳川家斉には50人以上の子供がいます。確率的にはこうなって当然であり、そうならなかったのは秀吉自身が男性不妊だったからに違いありません。



では秀頼は誰の子かということになりますが、最も可能性が高いのは淀君の乳母である大蔵卿の局の息子で、晩年まで淀君から寵愛を受けていた大野治長です。淀君が若いころ秀吉を心から憎んでいたことは有名です。実の父(浅井長政)と兄を殺したのは、信長の命令とはいえ秀吉だったからです。また母(お市の方)を自害に追いやったのも秀吉です。そもそも憎しみを封印し、両親と兄を殺し自分の人生を目茶苦茶にした男の側室になったのは何故でしょうか？ 答えは簡単。復讐のためです。つまり子供が欲しくてたまらない秀吉に他人の子供を自分の子供と思わせることで、秀吉の権力と財力をすべて乗っ取ることが彼女にできる唯一の復讐の手段だったわけです。秀頼を目に入れても痛くないほど溺愛していた秀吉を淀君がどういう目で眺めていたか、想像に難しくありません。もしかしたら、臨終直前の秀吉に真実をぶちまけ、高笑いしたかもしれませんね。

秀頼は容貌も体格も秀吉に全く似ていなかったと言われていますが、昔は男性不妊という疾患概念はなかったでしょうし、待ち望んだ子ができて得意絶頂の天下人に向かって「殿下は淀君に騙されていますよ」なんて言った人は必ず首と胴が離れたでしょう。もっとも、正室の北の政所が秀吉の死後豊臣政権に対して冷淡で、一貫して徳川家康の味方をしていたのは、彼女には真相が分かっていたからかもしれません。

しかし悪事は長続きしないもので、秀吉の死後、権力は徐々に家康に奪われていき、ご存知のように大坂夏の陣で彼女は自害に追い込まれます。何の罪もない秀頼は可哀そうですが、淀君に関しては、不幸な生い立ちに同情の余地はあるものの自業自得としか言いようがありません。

認定看護師のご紹介 不妊症看護認定看護師 川上 聡子

不妊症看護認定看護師の仕事は、最近の言葉で言うと妊活(妊娠活動)支援となります。どのような支援かという、不妊症や不育症の悩みを抱える方たちへ治療の相談やコーディネート、悩みに対するカウンセリングをおこなっています。

子どもを授からない原因は、近年では女性側45%、男性側35%、男女ともに、が20%といわれています。何を言われるのか怖い、なんだか聞きづらい、など産婦人科や泌尿器科の受診は敷居が高くなりがちですが、まずは相談からはじめてみてはどうでしょうか？子どもが授からない悩みは、親、兄弟にも話せない、と夫婦だけで悩んでしまう、デリケートな問題です。たまった思いを吐き出して気持ちをリフレッシュできるような援助をしています。

また、最近ではがん治療や血液疾患のための治療で生殖能力を失うこともあります。そのための妊娠の可能性を温存する技術もかなり進んできています。そのアドバイスもおこなって行きたいと思っています。

脳神経外科ホットラインを開設しました。

電話番号 直通 070-5261-5169 (新病院に移転するまで。移転後は変更となります。)

医療関係者専用の、脳神経外科医師への直通電話です。

対応日・時間: 月曜～金曜 9:00～17:00

緊急症例や診療についてのご相談など、何でもお気軽にご連絡下さい。

脳神経外科診療科長 河内正光

医師の人事異動

転出

11月30日付 安原千夏(皮膚科) 大西信彦(研修医)

12月31日付 久松芳夫(脳神経外科) 内藤貴教(研修医)